

業務の効率化が叫ばれ、雇用の多様化も進む。サラリーマンは安穩としていられない時代だ。冗談の一つも言っていられない? いやいや、だからこそ職場ではだじゃれを言い合おう。黙々とパソコンに向かっているよりも、仕事力がアップするという説がある。



だじゃれビズ

だじゃれの法則

- 一、子音をズラす
例：そんなバナナ
- 二、同音異義を使う
例：このミカンはまだ未完成
- 三、言葉をつける・切り離す
例：ブドウひとつぶどろどろ?
- 四、英語化する
例：日本海に飛び込むとジヤパンと音がする
- 五、音を使う
(擬音、促音濁音半濁音など)
例：課長かつよいい、次長実直

※日本だじゃれ活用協会による

「やる気アップ」調査結果も

現実には会社ぐるみで、だじゃれの活用を業務改善につなげようとした企業もある。宅配ピザチェーンのドミノ・ピザ ジャパン(本社・千代田区)だ。ネット上で「百人にアンケートし、だじゃれが職場に与える影響を調べた。調査によると「だじゃれが言える職場環境」で働いている人の満足度は70%で、そうでない環境で働く人の二倍。「職場で笑いが起きるとやる気アップする」という人の割合も69%に上った。

この結果からドミノ・ピザは、〇一三年六月、だじゃれを「社内公用語」にする計画を進めると発表した。ただ、「本当にやる気となる」と、逆に考えすぎて疲れてしまった「マーケティング部」と、発表から一カ月もたわず計画は頓挫した。だじゃれの効用は確かであっても、無理して言わんとするものもよくないようだ。

無理は禁物 自発的に

「サケを二つに裂け」「ヒラメがひらめいた」「ブリーフをはいたぶり」

日曜日、都内の会議室に集まった大人たちが魚をお題にした、だじゃれを披露しあった。職場におけるだじゃれの効用を説く「日本だじゃれ活用協会」が開いたワークショップ「ダジャレ・de・こさる」。

参加者がお題を前に言葉遊びをわり出そうと考え込んでいる姿は、俳句の句会のようにも見える。参加者は、だじゃれの効果や使う上での注意点などについても議論した。「人と人の垣根を越えられる」「距離が縮まる」など、多くの利点が挙げられたが、職場で口にするに不安を覚えるという声もあった。「若い人から」「昭和ですか」と言われる。

講師役で協会代表理事の鈴木

ひでちかさん(四〇)は、「なでしこジャパン」の佐々木則夫監督が、選手との会話の中でだじゃれを多用していることを例に「日ごろの楽しい雰囲気がいざというとき力発揮する」と強調。「昭和ですか」と言われたら平静(平成)を装って」と指南した。

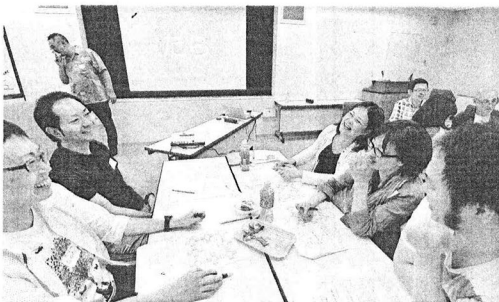
参加者の中野区の幼稚園教師、池上幸花さん(三三)は「同僚がだじゃれで職場を和ませるのを見て、いいな思っていた。後輩ができたらだじゃれで話し合いたい」と勉強になった様子だった。

鈴木さんは、社員研修などの講師養成コンサルタントが本業。大手化学メーカーや教育研修ベンチャーをへて二〇一一年に独立した。長く人材開発や研修の仕事に携わる中で、職場を和ませるだじゃれの効用に着目。協会を設立し、二三年に

回目のワークショップを開いた。だじゃれ活用協会を名乗る。父が転勤族で、小学校の時に

だじゃれ活用協会が主催するワークショップの様子

職場和ませ 仕事はかどる



三回の転校を経験した。新たな環境に溶け込むために、武器としたのがだじゃれだった。独立して社会に生かせる自分の力は何かと自問自答したとき、子どもころの体験が浮かんだ。

鈴木さんは、だじゃれを職場にとまどまず、教育現場や医療現場、国際親善で活用してほしいと願う。「だじゃれは世界を救う」がスローガン。普及のため、だじゃれられるかも開発中だ。

一つだけ、鈴木さんが注意を呼び掛けるのが「オヤジギャグ」とだじゃれの違いだ。「自己中心的に、思い付いたらから言っのがオヤジギャグ。これでは嫌われます。TPOをきまえて緊張をほぐしたり、行き詰まった会議を打開させたり、愛があるのがだじゃれ。「スベる」リスクを冒す勇気を持つて使ってください」